

実りの秋へ、豊作の願いこめ
 新嘗祭播種式・田植式



快晴の下、横一列に並び丁寧に手植え



丈夫な苗の成長を願って(播種式の様子)

献穀米栽培に
 松本さんが選ばれる

今年の新嘗祭で納めるコメの播種式が4月10日、田植え式が5月19日、献穀奉仕者である松本洋一さん(根雨)所有の別所地内にある献穀田で行われました。

4月10日の播種式では、献穀奉仕者の松本洋一さん、智津子さん夫妻をはじめ、景山町長や地元代表の人らと共に、作業の無事と豊作を祈願する神事と播種(種まき)を行いました。

播種式後は、徹底した温度や湿度管理が行われ、田植え

式を迎えるころには、がっしりとした苗に育ちました。そうして迎えた田植え式では、松本さん夫妻、林鳥取県副知事、景山町長、地元代表ら24人が手植え。そのうち、かすりの着物にすぎがさをかぶった6人の早乙女が田植えに花を添えながら、1本ずつ丁寧に植え付けながら、豊作を願いました。



作業の無事と豊作を願う松本さん夫妻

豊作を祈願する
 古くから続く祭礼

新嘗祭とは、毎年11月23日に宮中で行われる行事。稲の収穫を祝い、翌年の豊稔を祈願する古くからの祭祀で、各都道府県から選ばれた農家がコメやアワを奉納します。鳥取県では、戦争で中断した宮内庁新嘗祭への献穀を昭和28年に再開し、今年も鳥取県を

代表して日野町で栽培することになりました。

献穀奉仕者となった松本さんは、環境保全型農業や米の食味向上に積極的に取り組み、平成24年に開かれた米・食味分析鑑定コンクール(都道府県の部)では、鳥取県で初めて金賞を受賞しました。

松本さんは「ここでは、標高450mの夏季冷涼な気候ときれいな水で、甘味が多くなればかむほど甘味が出るコメが育ちます」と話し、「稲穂の成長を見守りながら、家族一丸となって栽培に全力を尽くし、実りの秋を迎えたい」と抱負を語りました。

今後は、9月に抜穂式、収穫感謝祭を行った後、皇居に献納する予定となっています。



早乙女姿で華やかに、古式ゆかしく



田植えでふれあい、じゃぶ汁に舌鼓

日野高校と黒坂小学校3、4年生が田植え交流

5月27日、黒坂小学校3、4年生と日野高校生徒との田植え交流が、日野高校黒坂施設で行われました。

田植え交流は10年以上続く伝統行事。小学生と高校生が世代を超えて交流することで、お互いに学び合い成長することを目的としています。

参加した子どもたちの多くは、田んぼに入るのが初めての様子でしたが、日野高校アグリライフ（農業）系列の生徒たちに、苗の持ち方や植え方を教わりながら丁寧に教えていただきました。生徒たちも子どもたちを助けながら、すっかり打ち解けた雰囲気です。笑顔があふれていました。また、当日は、米子田植唄保存



歌と踊りを背に田植えも弾む

会（米子市）の皆さんが招かれ、歌と踊りを披露、子どもたちも早乙女姿や法被姿になり、田植えを盛り上げました。生徒と子どもたちは歌に合わせて苗を植えるなど、楽しんでいました。

田植え後は、日野町食生活改善推進協議会（長谷川利子会長）の皆さんによる、じゃぶ汁とおにぎりがふるまわれました。じゃぶ汁をみんなでお楽しみながら、子どもたちは「お兄さん、お姉さんがやさしく教えてくれて楽しかった」と感想を述べ、生徒たちも「農業を通して子どもと触れ合えてよかった」と笑顔で振り返っていました。



疲れも吹き飛ばす楽しい昼食会

元気においしく育ってほしい

根雨小学校で田植え



真剣なまなざしで苗を植えていく子どもたち

根雨小学校の田植えが、5月13日、根雨小学校グラウンド横の学校田で行われました。

今年は、境港市の誠道小学校5年生10人が参加し、子どもたちと交流しました。これは境港市で作られた海藻肥料を使った日野産米を、市の小学校へ今年の秋から納入することから交流が始まりました。

好天の中、伝統行事である田植えを一目見ようと、保護者や地域住民が集まり、ぬかるむ田んぼの中で悪戦苦闘する子どもたちに声援を送っていました。

秋の収穫が楽しみだね

保育所と津地自治会がサツマイモ植え交流



「大きくなあれ」丁寧に手植え

毎年恒例となっている、ひのっこ保育所と津地自治会とのサツマイモの苗植え交流会が、6月4日、津地内の畑で行われました。

当日は、保育所から年中・年長児28人が参加。用意されたサツマイモの苗約300本を地域の人と一緒に植えていきました。

秋には、イモ掘り収穫祭が開かれる予定です。「早く大きくなつてほしい」、園児たちのにぎやかな声が響く中、津地自治会の皆さんもその日が待ち遠しいようでした。